

現代英米文化学会 会報

#001

題字は勝浦先生

Published 23 October 1989

Not for sale

「会報発刊に際して」

会長 勝浦 吉雄
この度、会の連絡その他会員相互の情報をより緊密にするために、「会報」を発行することになった。従来のやり方でも十分その機能を果たしてきたことは言うまでもなく、つねづね感謝してきたところであるが、その分だけ事務局に相当の負担を強いてきたことも事実である。それを少しでも緩和するために、会の業務はできるだけ全会員が相応に負担して行くように心掛けたい。これが「会報」発行の主旨なので、今後「会報」発行の雑務に何卒ご協力いただきたい。同時に、皆さんの情報交換の場として、これを十二分に活用され、会の向上発展に尽くされんことを切にお願ひする。

★学会よりのお知らせ★

<<現代英米文化第20号原稿〆切迫る>>

学会誌「現代英米文化」も20号という節目を迎えることになりました。原稿の締切は11月30日です。編集委員の誰にお送しくださっても結構です。奮っての投稿をお待ちします。投稿指針については第19号巻末をご覧ください。

<<忘年会>> 第71回例会

現代英米文化学会では、東京で大会があった年は一泊忘年会を開催することになっています。ふるってご参加ください。会費は当日現地で徴集します。お申し込みは同封の葉書で高取清先生に、11月20日までに願ひます。

忘年会：12月9日(土)～10日(日)

於 箱根湯本 葵荘 (箱根湯本駅徒歩10分)

午後3時集合 午後4時～5時 研究発表、および総会

午後6時より懇親会 翌10日 朝食後解散

費用 1泊2食つきで1万円(交通費含まず)

葵荘の電話 0460-5-5388

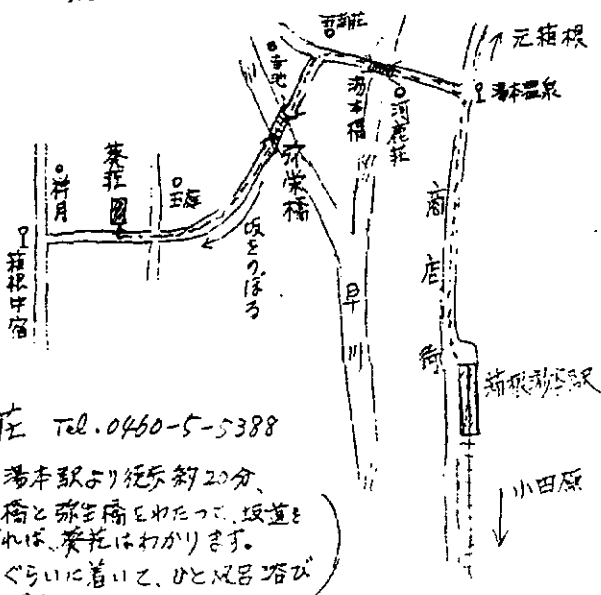
発表: "Some English Sounds of Paramount Importance in Connected Speech"

成田敬彦 (産能大)

総会: 事業報告ならびに事業計画等

地図

箱根湯本温泉略図



<<会員の動き>>

-- 出版 --

成住真男先生の大作、「洋語教授法史研究」(6386円)が学文社より出版されました。

小野 昌先生他編の、「日本のシェイクスピア百年」(1800円)が荒竹出版より刊行されました。

忘年会の懇親会の席で出版祝賀会をさせていただきます。

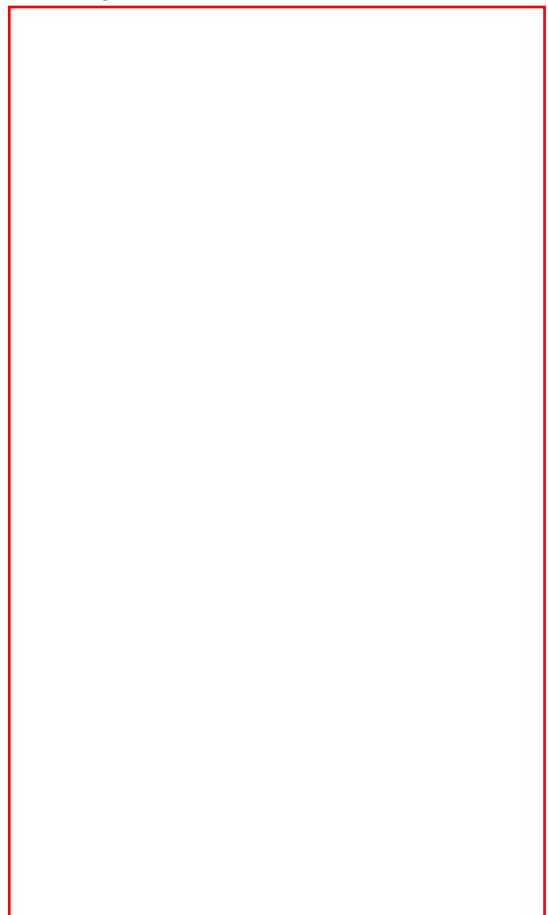
-- 学位 --

勝浦 裕先生 「明治日本における社会ダーウィニズムの受容と展開」で上智大学より文学博士号を授与されました。おめでとうございます。

-- 住所の変更等 --



-- 新入会員 --



<<学会よりの出版>>

本学会編「高校生の英単語1300(仮題)」が桐原書店より十一月中旬出版予定です。中・高で教えている(いた)先生方を中心に御協力頂きました。執筆者は次の方々です。青柳峯生、佐藤治夫、高取清、古澤寛行、富田恵子、名和雄次郎、増澤史子、馬嶋治男の諸先生です。ご苦労さまでした。

◎重要!!

学会費が今年度から郵便振込となります。平成元年度の会費が未納の会員は、郵便局で「払込金受入票」(青色)を使って口座番号 東5 40225

現代英米文化学会

に3000円の振込をしてください。手数料は各自負担すること。御自分の会費納入状況が不明の方は、会計の高取先生まで御問い合わせください。一定年数会費の納入が無い場合は自動的に退会扱いとなります。

佐藤治夫

学会員が現在お持ちのワープロ、パソコンを使用してのデータ通信には次の3つの目的があると思います。

- 1) 原稿を他のワープロ、パソコンへ送る
 - 2) ファクシミリしか持っていない相手(出版社はまだデータ通信をしていません)にファックスを送る
 - 3) 普通の「パソコン通信」を行う
- 市販されている書物や雑誌がたくさんありますから、ここでは3)には触れません。必要な機材はワープロ(パソコン)本体、通信ケーブル、モデム、ソフトウェア。これらを電話線につなげば、もう完了です。

現在、編集委員長の佐藤治夫先生が電子掲示板を開いていますので、試しにアクセス(接続)してみましょう。通信パラメータはN81XNを使用しています。午後1時から翌朝6時までオープンです。

電話番号は03-777-0630です。

ID (identification number)は、APPLE050と入力、パスワードは ENIGMA と入力して下さい。英語英文学関係者ばかりでなく、電算機関係者も入っていますので話題が理解しにくいものもあるかと思いますが、練習用だとお考え下さい。

ファクシミリ発信が必要な方は民間電子掲示板の Nifty-Serve に入会していれば、A4版一枚80円で送信できます。駅に置いてあるファックスマシーンとほぼ同額ですが、データ通信でファクシミリを送ると、ファックスマシーンで送るより数段鮮明な画像が相手に届く点が有利でしょう。Nifty-Serve に加入希望者は「ニフティサーブ・イントロパック」定価6000円を購入し、中に綴じ込みの仮パスワードを使って接続すると、相手は商売ですから、いろいろと一所懸命に尋ねてきますから(文字をキーボードから打ち込んでの筆談と思えばよいのです)それに答えるだけです。後日、確認のために最終的なID(他人からメールをもらうときの番地)とパスワード(接続するときを使うもので決して他人には教えてはならない)を送ってきます。

<これからワープロを買う予定の方へ>

編集委員会

編集委員会では現在データ通信によるニュースレター作りをすすめております。

複数の編集委員が打ち込んだワープロ(パソコン)の原稿を電話回線を經由して一ヶ所に集め、総合編集をしております。既に一部の大学では紀要の原稿をワープロやパソコンのディスクで提出することを認めるようになっております。校正回数が少なくなり(著者は1回校正するだけでそうです)大幅に刊行までの時間が短縮されています。

当学会では、近い将来電話回線経由による投稿もできるよう検討中です。これからワープロ(パソコン)を購入しようとお考えでしたら、是非このような動向を考慮に入れ、次の二項目のうち必ず一つを満たす機種を御選定ください。

- 1) 「通信機能」を備えており、モデム(現在1万5千円位)を買って電話回線につなげば打ち込んだテキストを送れる機種
- 2) 標準的なオペレーティングシステムである、MS-DOS、PC-DOSでディスクへの書き込みができる機種



<<ニュースレター原稿募集!>>

ニュースレター2号の原稿を募集します。下記の要領で御投稿ください。

ニュースレター投稿要領

- 1 編集部より依頼した原稿をのぞいては全てワープロ原稿が望ましい。
- 2 投稿内容は研究ノート、書評、随筆等とする。
- 3 編集権は編集部に残し、原稿は返却しない。
- 4 写真は掲載できないが、図版は掲載できる。
- 5 ワープロ原稿は、そのままコピー版下となるよう打ち出す。24ドット以上の印字品質
2段組にできるように1行29文字で横幅11cmにおさまる(編集段階で縮小します)。印字方向は横書き
行間隔は55行程度とする。

ワープロ・パソコンを使用して上記の規定が満たせない場合は次のいずれかとする。

- 1) 磁気媒体(ディスク)を送付する。
(NEC-PC9801、東芝のJ3100シリーズ)
- 2) 通信回線での原稿送付の場合は電子メールとする。通常はメールが300行しか受付られないので分割して送信すること。

メールボックスは Nifty-Serve の場合 NAA00761 に、また PC-VAN の場合は XKF89898 にメールを発信してください。

Concerning the Publication of Gendai-Eibei Newsletters

Dear Members,

It is our sincerest pleasure to notify you members about this series of newsletters with a view to better information exchange. Your participation is highly welcome and needed. Here are some instructions to the contributors.

This newsletter will be a quarterly publication with the format of A3 paper divided into four A4 pages. Contributions should cover essays in literature, linguistics, education and other fields pertaining to the spirit of Gendai-Eibei.

Submission of contribution should be in one of the following formats:

- a) Typewritten double-spaced on a regular A4 sheet with ample margins
- b) Transmission via electronic bulletin boards:
CompuServe 76662.112 / GENIE H.SATO
PC-VAN XKF89898 / Nifty-Serve NAA00761

We earnestly await your participation.

Representing the Editorial Board,

Haruo Sato
Editor-in-Chief

<<第7回大会開催さる>>

日本大学文学部に於て9月30日に行われた、第7回大会は成功裡に終了しました。研究発表も充実したものが多く、質疑応答も活発におこなわれました。外山滋比古先生の御講演も、倍調高くかつユーモアに富んだ内容でした。外山先生は、その後に催された懇親会にもお付き合い頂きました。懇親会も多くの方が参加され、あっと言う間に時間が経ってしまいました。第8回大会は地方で行われる予定です。

以下に研究発表の内容要旨を掲載します。

第7回大会研究発表内容要旨

第1室

1. W.S. Maughamの芸術観

—The Moon and Sixpenceを中心として—

村岡昌代

画家、Paul Gauguinの生涯に暗示を受けて書かれたこの作品を通して、芸術のためには他人の犠牲をも全く意に介せず、力強く生きていく主人公、Charles Strickland及びその対照的人物として凡庸な画家、Dirk Stroeveを設定することにより、Maughamはどのような芸術家像、芸術観を描きたかったのであろうか。Maughamの他の作品をもふまえて論じたい。

2. Bernard Malamud論

—後期作品に見られるlate bloomerのベシミズム—

君塚淳一

Bernard Malamud(1914-86)自らが作家としてそうであったことから、彼の作品のプロタゴニストにはlate bloomerが多い。だが、遅い出発によりもたらされるものは現役時代の短命であり、その焦りは彼の作品における一つのモチーフであり続けたnew life(あるいはrebirth)をも後期作品ともなると徐々に不可能にしていく。

主にDubin's Lives(1979)、終作のGod's Grace(1982)そして、その後出版された短編3作を中心に他作品にも触れながら、Malamud自身が作家そして人間として抱える「老い」の問題をも含めて作品にみられるベシミズムの側面を論じてみたい。

3. D.H. Lawrenceの中期小説の技巧とその問題点

—The Three Novellasから—

須田理恵

1923年、ロレンス中期の代表的短編小説、“The Fox”、“The Lady-bird”と“The Captain's Doll”がThe Three Novellasの中に収められる。これらのロレンスの「円熟期」の三作品をそれぞれロレンスは延長し、オリジナルの倍もの長さに改作する。一体ロレンスは彼独自の「深み」に至る文学へ到達する為に如何に心血を注いだか、その技巧とその問題点をここで探ってみよう。

4. The Comedy of Errorsにおけるマニエリスムの時間

鈴木正彦

Macbethは、時代の転換期に書かれた悲劇である。I. Ribnerがこの時代をparadoxの時代と称することく、Macbethの「時」もparadoxicalな役割を充分にもって劇作されている。王位(future)を手に入れるため、現在をとびこえる—殺人を手段として—が、untimely bornのMacduffによって王位を奪われる。つまり「時」によって復讐されることにより、“time is free”となり、秩序は回復される。

それでは、喜劇に関しては、如何なる時の機能がうかがわれるのであろうか？ 初期の喜劇、The Comedy of Errorsに視点を向けてみたい。

一つの構造として、イージオンの物語が示す、始まりと終わりをもったキリスト教的時間があり、その中で二組の双子によって引き起こされる人間的な時間、混乱する時間がある。この笑劇をひき起こす原因は「タイミングの悪さ」であると考えられるが、そこには当時の芸術様式Mannerismの手法が受け取れないであろうか。The Comedy of Errorsにおけるマニエリスムの時間について考察してみたい。

5. 『十二夜』における笑い

—その特質と機能—

中村 泰

『十二夜』とシェイクスピアの他の喜劇を2~3編(『間違いの喜劇』や『恋の骨折り損』など)とを比較した上で、『十二夜』の中にみられる笑いの種類と特質とを分析しそれぞれの笑いが劇中で果たす役割について考察する。同時に、それらの笑いが、シェイクスピアに特有のものなのかについても論じる。最後に、この作品とシェイクスピアの他の喜劇との構造上の相違点と共通点を明らかにしたい。



1. Presidential Debate における協調の原理

鳥飼慎一郎

1988年10月30日にロスアンゼルスで行われたブッシュ候補とデュカキス候補のテレビ討論を、会話分析、談話分析、語用論等の視点から考察したい。本研究発表では記者の質問の特徴を、

- 1) 極端な例を示し、候補者の政策の不合理性や矛盾を衝く
 - 2) 選挙公約と候補者本人の政策、政治活動との矛盾を衝く
 - 3) 反対意見、事実を示し、候補者に反論させる
 - 4) 両刀論法を用い、候補者の真意、反応を見る
 - 5) Hypothetical questions により、より具体的な状況設定のもとで、候補者に具体的な対応、判断をさせる
- の5点であるとし、以下の3つの疑問点につき考察していく。
- 1) 上記のような特徴をもつ記者の質問と候補者の答えを一種の会話と見た場合、そこには通常の question-answer に見られるような協調の原理は存在するか
 - 2) 質問において示されたその対立関係を候補者が答えの中でどのように処理して、自己統一をはかり、他に対する反論を行うのか
 - 3) 質問を受けた候補者の行う2分間の答えと、その後に対候補者の行う1分間のリバトルとは、テーマの構成や配置にどのような違いが見られるか

2. 日英対照言語学—理論と実践

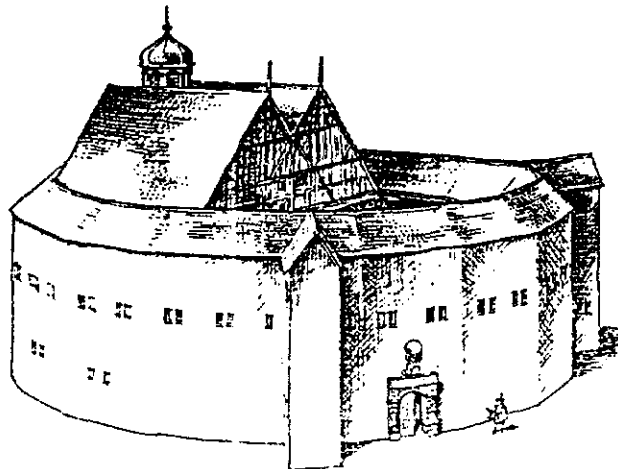
鈴木俊二

目的：日本語と英語の対照研究の理論を検討し、状況を分析。
 要旨：対照言語学は応用言語学の一分野として発展してきた。これまで、その目標は外国語教育への応用と言語の普遍性の追求の二つだった。しかし、今やその応用範囲は特定分野（翻訳、辞書編纂、中間言語研究、外来語研究、など）へと広がりを見せている。今回の発表では、以上三つの側面から現在（1980年以降）の日英語の対照研究の実際を紹介し、日英対照言語学の有効性を述べる。

3. 最近の音声学書に学ぶ—批判と解説

成田敏彦

明治以来、日本の音声学書は 'Words in Isolation' に重点を置き過ぎ、'Word Groups' や 'Longer Utterances' レベルを軽く扱う傾向にある。いわゆる「日本人の通じない英語の発音」とは、音声学のどの分野に相当するかを解明し、またその一掃を図るために最近の音声学書は、どれほどの重要度を意識して扱っているかを追究してみたい。



4. アメリカでの教育におけるコンピュータ利用の実態

池田広子

今日大きな教育課題となっている「学習の個別化」、「学習の個性化」とは、学習者一人一人に応じた学習指導のあり方に関わる問題で、生徒または学生の各々の能力をどのようにして伸ばすかである。しかし、現状ではそれが十分達成しがたいというのが、教育現場の担当者、そして学校のいつわらざる悩みの一つ。そうしたなか、パーソナルコンピュータの目覚ましい発展から、文部省などの推進もあって、学校教育にコンピュータを活用し、これに対処していこうとの動きが起こり、CAI教育などの教育の各レベルで今その試みがなされている。本研究では、今後の日本の教育（英語教育）におけるCAI教育の方向性を模索する手掛かりとして、コンピュータ教育で10年以上先をいっているといわれているアメリカでの実態とその問題点を指摘する。

5. 言語相互作用の在り方

新妻 紘

Communicative Competence を高めるために必要な言語相互作用 (Verbal Interaction) の在り方について、その原理と実践、実践記録による言語の発音分析と考察について言及する。さらに、学習者の英語の input の様態と production の過程について実践の結果を踏まえて具体的な方法を理論を含めて述べる。尚実践の実例は都内の公立中学校、高等学校の英語科教師の研究授業のビデオ録画とテープ録音を参考とする。

編集委員会より

編集委員長 佐藤 治夫

目まぐるしく移り変わる時代の波も、当学会に押し寄せて来て、学会員相互の連絡などを密にする必要から、会報（口頭での連絡などはニュースレター）を刊行する運びとなりました。このニュースレターには、例会、大会の通知は勿論、会員の動向などを始め、研究発表内容要旨、書評、評議や提議などを含めるものにしてゆく予定です。会員の皆様で、転居、転勤、出版をなさった方は御一報ください。

ニュースレターは年間4回発行いたします。今後は、例会、大会のお知らせはすべてこちらに掲載しますので、お見逃しの無いように願います。例会開催の1カ月前にはお手元に届くようにと思っております。葉書でのお知らせは致しません。

発行責任者 佐藤治夫
 現代英米文化学会編集委員会
 佐藤治夫、石原 強、相良英明、大橋道幸
 石川都二、中村 薫、宮本正和

<投稿時の宛先>

通常郵便
 郵便番号 101
 千代田区神田駿河台1-8-13
 日本大学歯学部 佐藤英語研究室内
 現代英米文化学会編集委員会 宛
 電子メール
 [DOMESTIC]
 Nifty-Serve NAA00761 / 2C-VAN XKF89898
 [FOREIGN]
 CompuServe 75662.112, GENIE H.SAFO